



ハンティング・キャップ
は鳥打帽子のことだ、
云ふがハンティングの別
意には狩獵のことをも
そう呼んでゐる、また
単にキャップと云へば
線のない帽子のことだ

出盛りを越えた

四倉市場の春繭

石城地方の春繭は今日日が出
廻り盛期で漸く終期に入る模
様であるが去る十一日から開
場した四倉市場の取引に見る
白繭買割れ四十二、三割は比
較的割高を示してゐる今年の
繭價は糸價の状況より想像す
る公平なところは廿九掛乃至
卅掛を精々とした信達の本場
に於ける標準價の如きも
一等四三割 二等四二割五
〇錢 三等四二割
で賣に於て量に於て劣るとも

霜害対策の事業に

永戸村道改修陳情

上下永井間に於ける二キロ

霜害対策に關しては農會及
び養蠶組合相携へて當局に救
濟方を運動されてゐたが其の
結果縣では
養蠶家が同被害対策に製糞
に従事すべく焚籠を構築す
るものと同築設費に對し四
分の一を補助する其の條件
は一世帯一籠に限る、而し
て霜害の爲め家計の半ば以
上を蠶收入によるもの奉還
收入二分の一以上霜害減收
の見たるもので當該町村特
戸制平均以下のもの
とする救濟策を講じ山林課に
此の補助額五千圓を立てられ
たが尙ほこの外に町村管林道

片倉の特約養蠶

春繭六萬五千貫

原料不足を他目の入荷
平市の片倉養蠶場は特約養蠶
の入荷を去る十日から開始さ
れ各製糸家が原料不足を憚り
の他目に頼る懸念を述べを
見せてゐるが十日までの織
入一萬二千貫に引續いて以
の入荷左記の如く四十九日
一萬貫、二十日五千貫を見込
む合計五萬八千貫に於て二

海軍下士の肩書に

恩給ある身で詐欺

平市某有士の横領取調へに

筆止料と稱して數百圓
石城郡好間村に無職研究所々
長の看板でラヂオ屋を営む若
瀨郡仁井田村生れ長澤龜雄三
内岩太郎(四三)は昨秋から本
春に亘り平市内の有士某宅に
太郎假名氏が業務上の横領で
平寄に留置取調へ中の留守宅
を訪ね筆止料を止めねばな
らぬからと金三百圓を騙し其
れを一部の或方面に使つた
去る四月頃、杉山陸軍大臣
を詐欺した外野小川陸軍部
吉田繁太郎から石炭の買入に
不足したと稱して金五十圓を
借用の名義で偽れるもの等を
悉く遊興に費消してゐること
平寄に探知検身取調へ中であ
るが同人は海軍の下士官で恩

偽首詐欺九名捕はる

汽車の中でルンペン漁り

あるが同人は向井一外同

嶺山に於ける軍需景氣の入夫
佛底を見て取り偽首を以て數
百圓を騙取し石城郡勿來町出
倉坂礦坑夫の一味は昨報の如
く平寄では犯人の逃走を探り
弄謀を以て偽首廿名を泊めた
湯本町天王崎居佐元坑夫大藤
寛一郎(四七)外
出倉坑夫大野野野一郎(三三)
依藤六郎(三三)増子昇(三三)飯
由重(三三)須田吉蔵(三三)大
里助次郎(三三)長澤龜雄(三三)
渡邊松五郎(三三)九名を
取押へ取調へた結果去る十四
日夜勿來町に勢揃へをなし湯
本礦坑の間に汽車の中でルン
ペンと見る者に情を申し顔を
かり翌十五日北海道明治礦業
會社より出張せる石崎和吉氏
を欺き偽本に於て酒肴の饗應
を受けた外三百圓の出立金を
騙つたものである

戦地二百卅度の酷暑に

みんな裸で作業

本市正行

酷暑、青葉警署の署員は候
と宿成りした、署員は候
は益々御健勝の御事より
御喜び申上げます、本署の
征中は家族の者一方をこす
種々御厚情を賜は、誠に有
難たく存じます、署員は以
て厚く御禮申上げます、御
一同様には日夜の別なく御
勉勵の由唯々感謝にたぐま
せん、御陰謀にて私親兄弟
(兄忠雄君)後顧の憂もな
く元氣一ぱい専心業務に努
力致して居ります、兄は〇
〇にて奮闘いたして居りま
す、我が部隊は〇〇の陣地
にて連日〇〇方面へ向かい
たし〇〇キロの砲撃の繰
返を敵陣目がけて御奮闘申
上げて居ります、北支〇〇
基地にはもう眞夏を訪れ
も部落も一面緑に包まれ
流れて居ります、クリックス
汽で一時間半も上ると曹長に
到着致します、十月六日早朝
我が軍はクリックスを渡りて攻
め寄せたのです、支那軍は凡
ての準備を整へて曹長に待
構へて居たのです、激戦〇〇
僅かに三百米前進するの〇六
日かゝつたと云ひますから激
戦の程は想像されます、見え
と一歩毎に「さん、ごう」が地下
げられて居ります、三、四尺
位の低いものだが縦横無盡に

主犯者に

偽首詐欺の

應召者の野金横領

勿來町出倉坂礦坑夫野金横領
源村の八幡村生れ長澤龜雄三
内岩太郎(四三)は昨秋から本
春に亘り平市内の有士某宅に
太郎假名氏が業務上の横領で
平寄に留置取調へ中の留守宅
を訪ね筆止料を止めねばな
らぬからと金三百圓を騙し其
れを一部の或方面に使つた
去る四月頃、杉山陸軍大臣
を詐欺した外野小川陸軍部
吉田繁太郎から石炭の買入に
不足したと稱して金五十圓を
借用の名義で偽れるもの等を
悉く遊興に費消してゐること
平寄に探知検身取調へ中であ
るが同人は海軍の下士官で恩

汗だくの電工

受驗勉強に

電氣工の試験による免許制

電氣工の試験による免許制
度が設定されて来る九月末日
迄の猶豫期間が迫り合格しな
ければ急よ斯業から離れねば
ならぬ爲め半端に取組の工去
達が受驗勉強に必死となつて
ゐるが右試験の期日、場所は
左記の如くである
△七月十二日仙台高工△同
月下旬又は八月月上旬山形市
△八月下旬盛岡市 秋田市
野森市△九月中旬仙台市
郡山市(以上)

戸一品寄附

事變一週年に

石城郡上遠野村の在郷軍人分

列始めて居ります、北支の
百始さんは雨が降らないか
ら井戸から水を吸みあげ品
へやつて居ります、井戸には
釣瓶などなく、一寸工夫し
たもので巻き上げて居りま
す、一日中何回も休みなが
ら働いて居りますが、なか
く大變だなぁと思つて見
てゐます
石城郡上遠野村の在郷軍人分
會では支那事變一週年記念の
來る七月七日村内八百餘戸か
ら一戸一品の不用鐵屑を集め
て賣上金を献金すると
事變一週年に
戸一品寄附

災害復舊工事の

竣功検査

石城郡下左記の災害復舊工事

石城郡下左記の災害復舊工事
に對し縣土木課金澤技師今十
八日來郡竣功検査をなす
△江名町川畑橋(工費二千
百圓)赤井村常住橋(千二

鶏の養育

孵化期の養育 (三)

飼料費と飼育費に 果樹と養鶏の向後

伏座の後五日から一週間ぐらゐで検卵をする、胚子の完全に發育したるものけ卵の半面に赤色の血管が黒色に見える胚子を中心として放射状に走つてゐるが卵が弱いか腐つてゐるのは中心に黒點はあつて放射状の血管がない、第二回目の検卵は二週間にするのであるが卵の半分ほどは胚子と血管が赤黒く見えるが不色なものは汚濁した不鮮明であるからこれを除く、平均二十一日目に産ると十分に發育して雛は自分で歩をもつて殻を破つて出るが此のとき蒸気が不足してゐるやうならで、二産卵をふきかければよい、果樹の飼料としては澱粉質に富んだ消化し易い粒餌を用ひ小麦、粟、大麦などがよい、動物質や青葉は胚卵するのにならば不要であるが水は新鮮なものを與へる、砂浴が必要であるから果樹附近の土を敷けて置き寄生虫の甚だしい場合には除虫菊を土中に混ぜておいて驅除する事が肝要である、養鶏界の今後の形勢を見るに、養鶏界の事は殆んど研究しつゝされてゐると見てよからう、たとふ卵種と同時に卵、肉兩用の食用種飼育が相成盛んになつたことは注目すべきことと全般的に見て卵用種の飼育の割合は七對三くらいが丁度理想的と云ふことが出来るであらう(終り)

藤沼醫院

平市新屋町 電五〇七

正確 体温計 (種各)
なる 寒暖計 (種各)
計量器指定販賣
平市五丁目
山野邊藥局

中野齒科醫院

平市田町 (松月堂内)
院長 日本齒科 中野 誠次
日本齒科 西川 誠
醫學士 川 誠
電話五〇九

診療科目
一、齒科 一般
二、小兒齒科、矯正齒科
三、外科
四、レントゲン科

産科 醫學博士

婦人科 五十嵐雄二

病室増築、手術室完備
平市新川町「電話二六九番」

お醤油は ヤマフル

醤油味増 たいひら正宗 産節食料品

山崎合名會社

電話 一〇七〇番
平市本町二二七番

明治生命警備代理店 山崎與三郎

マールサービスの ランチ

品名	品名	品名
カツカツ	カツカツ	カツカツ
カツカツ	カツカツ	カツカツ
カツカツ	カツカツ	カツカツ
カツカツ	カツカツ	カツカツ
カツカツ	カツカツ	カツカツ

材料のまかきを練りつけて、新築の物を出して、好評を博して居ります。

平市本町 電話 二二三番
電話 二二三番

「看護見習募集」

明雲堂眼科醫院 (電話 六六九)

平田町 (三丁目裏川岸通)
入院應需 (自炊の便あり)

皮膚科 泌尿器科 性病科

江尻醫院

診療時間 午前八時より 午後九時まで
醫學博士 江尻伊三郎
平市田町 電話六九一番

和洋雜貨、金物問屋

益屋商店

九九・九番

帝國海上火災保險株式會社

平代理店 關内正
平町二丁目 電話一六番
事務取扱者 阿部助次郎

サロソ

食。中。茶。の。喫。場。を。使。ね。た。レ。ス。ト。ラン

町田平 二五三番

夏の帽子 子供帽

パラソル 二重張と晴雨兼用傘

ツルヤ

平一四〇 電話

変圧器 販賣、修理



社会資合 所工鉄藤佐

町見月市平 (番二六三話電)

一般印刷物も御引受致します
新しいわき新聞社